

地域 DX の実現へ向けたデジタルリテラシーの向上と担い手の育成

大学院情報学研究科

プロジェクト代表 浦田真由

1. 事業の目的

大学院情報学研究科 安田・遠藤・浦田研究室では、社会情報学の視点に基づき、地域の活性化や情報化に関わる実践研究を数多く行っており、2019年より飛騨市、2020年より高山市と連携し、産学官民連携による ICT を用いた観光振興に取り組んでいる。飛騨エリアの観光地に画像認識システム（AI カメラ）等を設置し、観光施策や EBPM（Evidence Based Policy Making）のための、データ収集と分析を実践している。

2022年度には「産学官民連携によるデータの地産地消」として、内閣官房主催の「冬の Digi 田甲子園」に応募し、ベスト 8(審査員評価 1 位)を獲得するなど、現在の取組が高く評価されている一方、プロジェクトを地元で継続していくための体制構築までは至っておらず、地域で自走するためのデジタル人材の育成や担い手の確保が求められている。特に、これまで地元商工観光事業者にとって、データ分析や ICT に馴染みがなく、デジタルに対する理解が不十分であることが課題となっている。本事業では、自治体をはじめとする多様な主体が連携し、地域全体でデジタルを活用するための勉強会を開催し、大学が講師役となって、デジタル活用に関する様々な知見を提供していくことで、地域全体のデジタルリテラシーを向上することを目的とした。

2. 概要

地方の社会課題解決へ向けて、地域が主体となって DX に取り組むためには、自治体職員の他、データ分析や ICT に馴染みのない地元観光関係者のデジタルに対する理解を向上させる必要がある。これまでの成果をもとに、データ利活用に関するワークショップ（1 回）や勉強会（3 回）を開催し、デジタル活用への興味関心を高める取組を行った。本事業では、観光関係者の他、地元の高校生を対象とした勉強会も開催し、地元で収集しているデータの分析手法やデータ活用方法に関するノウハウを教えることで、“地域の未来を担う IT 人材”の育成にも貢献した。下記の勉強会を開催し、地域のデジタル活用を促進することで、地域全体のデジタルリテラシーを向上させた。

- (1) 2023.09.08：地元高校生を対象としたデータ利活用勉強会①(飛騨高山高校)
- (2) 2023.10.30：地元高校生を対象としたデータ利活用勉強会②(飛騨高山高校)
- (3) 2023.12.01：観光関係者向け ICT を活用したまちづくりワークショップ（高山市）
- (4) 2024.02.15：観光情報発信強化へ向けたインスタグラム勉強会(飛騨市)
- (5) 2024.02.16:高山市職員向けデータ利活用研修&高校生とのデータ分析会(高山市)

3. デジタルリテラシー向上へ向けた勉強会&ワークショップの実施

3.1 地元高校生を対象としたデータ利活用勉強会 (飛騨高山高校)

高山市での取組の輪を、将来を担う地元の高校生にも広げるため、大学院生が講師となって飛騨高山高校ビジネス科 2, 3 年生の一部生徒を対象としたデータ利活用の勉強会を開催した。2023 年 9 月 8 日には、Excel を用いた人流データの分析方法を教え、観光施策を考えるワークショップを実施した。2023 年 10 月 30 日には、12 月のワークショップへ向けて、人流データの分析方法と分析結果の見方について教えた (図 1)。



図 1 飛騨高山高校での勉強会

3.2 観光関係者向け ICT を活用したまちづくりワークショップ (高山市)

第 3 回ワークショップを 2023 年 12 月 1 日に実施した (図 2)。前半は今年度の研究成果を報告し、後半は、観光関係者と一緒に、Excel を用いた通行量データを分析した。産学官民が一体となり、データ分析の結果を見ながらまちづくりについて議論した。

※高校生はインフルエンザによる学級閉鎖期間となり、急速、ワークショップには不参加



図 2 第 3 回 ICT を活用したまちづくりワークショップ~通行量を分析する~



中日新聞 飛驒版 2023年12月3日



岐阜新聞 2023年12月14日

図3 高山市ワークショップ 新聞報道

3.3 観光情報発信強化に向けたInstagram勉強会（飛驒市）

2024年2月15日には、飛驒市図書館で、地元の観光事業者や一般市民を対象に、Instagramの使い方について学ぶ講座「名大生と始めるデジタル勉強会～飛驒市インスタ編～」を開催した（図4）。研究室では、Instagramを使った効果的な観光情報の発信について飛驒市と共同で研究している。その成果を市民の皆さんとも共有し、Instagramの効果的な使い方や近年の動向などについて広く学ぶ勉強会とした。学部生2名と院生1名が講師を務め、Instagramの特徴や効果的な利用方法について説明し、「リール動画」の作り方や動画編集についても紹介した。



図4 名大生と始めるデジタル勉強会～飛驒市インスタ編～

3.4 高山市職員向けデータ利活用研修&高校生とのデータ分析会 (高山市)

2024年2月16日は、高山市役所職員の方々を対象に、データ利活用への興味・関心を高め、名古屋大学との連携や地域のためのデータ利活用について学ぶことができるよう、職員向けデータ利活用の勉強会を開催した(図5)。勉強会前半では、Excelピボットテーブルを用いた観光統計の分析・可視化方法を教えた。後半は、飛騨高山高校の高校生11名が参加し、Excelを用いた通行量データの分析・可視化のワークショップを行った。分析・可視化の結果から、観光施策等を検討した。



2024年2月16日 前半
名大生が講師役となり、Excelピボットテーブルを用いた観光統計データの分析・可視化の勉強会。



2024年2月16日 後半
「通行量データ利活用ワークショップ」を実施
飛騨高山高校の高校生(11名)が講師役になって、通行量データを分析&可視化。施策を検討。

市職員のデータ利活用への興味関心を向上し、通行量データによるEBPMへ

図5 第3回 ICT を活用したまちづくりワークショップ～通行量を分析する～

4. 全体のまとめ

本事業では、岐阜県高山市・飛騨市において様々な主体を対象にデジタル勉強会を開催し、デジタル活用を促進することで、地域全体のデジタルリテラシー向上に貢献する取組を実施した。デジタル活用に関する新しい知識の共有や関心の喚起、デジタル利活用の実践の点でリテラシーを向上させただけでなく、高校生を対象とした勉強会では、“地域の未来を担うIT人材”の育成という観点でも新しい取組を実現することができた。また、他の地域からの勉強会実施の要望があり、一つのモデルとして、他の地域にも波及していく可能性があるといえる。

地域の様々な主体に対するデジタル勉強会を開催し、地域全体のデジタルリテラシーを底上げすることは、社会貢献になるだけでなく、「誰一人取り残されない、人に優しいデジタル化」にも繋がっていく。地域DXのメリットを地域に還元するためには、地元での実践が不可欠である。今後も引き続きWSや勉強会でデジタルと接する機会を確保しながら、事業者がデジタル利活用を実践できる割合を増やしデジタルに慣れることで、デジタルを利活用できる地域を増やしていきたい。

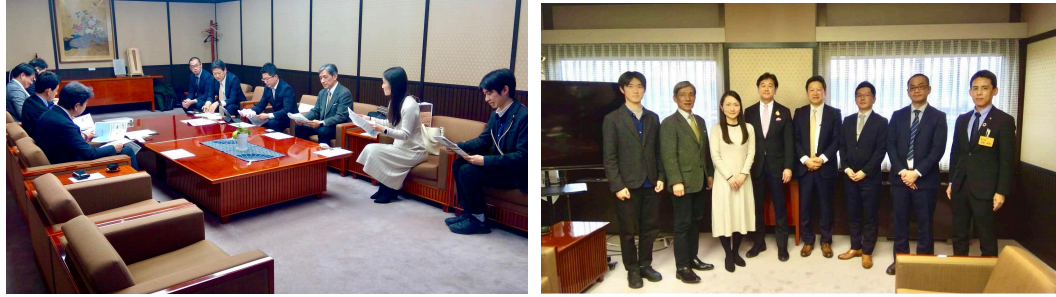


図6 高山市長報告の様子（2024年3月26日）

【研究業績】

論文

- [1] 観光まちづくりのための通行・交通量データ利活用プロセスの実践-通行量データ収集・分析・利活用の評価-：査読有り
堀 涼, 浦田 真由, 遠藤 守, 安田孝美, 山田 雅彦
観光情報学会誌「観光と情報」 19 巻 (1) 頁： 61 - 74 2023 年 5 月

国際会議

- [2] Utilizing Pedestrian Traffic Data for Store Management toward Tourism Digital Transformation：査読有り
Ryo Hori, Mayu Urata, Mamoru Endo, Takami Yasuda, Masahiro Yamada,
2023 IEEE 12th Global Conference on Consumer Electronics (GCCE 2023) (Nara, Japan) 頁： 1201 - 1205 2023 年 10 月

学会発表

- [3] 観光 DX に向けた地域のデジタルリテラシーの向上：
堀 涼, 浦田真由, 遠藤守, 安田孝美,
第 5 回 飛騨高山学会, 飛騨・世界生活文化センター 頁： 13 - 14 2023 年 12 月
- [4] 観光 DX のための地域の担い手育成 ～飛騨高山高校でのまちづくりデータ利活用勉強会～：(大会奨励賞)
中村淑乃, 堀涼, 浦田真由, 遠藤守, 安田孝美,
観光情報学会 第 24 回研究発表会, 京都情報大学院大学京都本校 京都駅前サテライト
頁： 14 - 17 2023 年 10 月
- [5] 産学官民連携による利用者視点での観光 DX：
堀涼, 浦田真由, 遠藤守, 安田孝美, 山田雅彦,
電子情報通信学会ソサイエティ大会, 名古屋大学 SSS 巻 頁： 3 - 4 2023 年 9 月